



令和8年 熊本地震に関する農林水産省の活動 ～発災から1か月間のあゆみ～

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries



I 令和8年熊本地震の概要

- 令和8年7月28日 16時27分頃、熊本県熊本地方でM7.1（震源深さ16km）の地震が発生。
- 熊本県宇城市・氷川町において震度7を観測し、震度1以上の地震を計727回記録（8月29日9時時点）。
- 熊本県における農地海岸堤防や農業用水路、ため池等で被害が発生し、農地・農業用施設等において15,029箇所の被害を確認。被害額は約960億円の見込み（8月31日14時時点）。

農地・農業用施設等の被害

R8.8.31時点

	被害 箇所数	被害金額 (千円)	地域
田・畑	5,035	6,117,468	八代、上益城、宇城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北
農業用施設	9,159	67,695,549	八代、上益城、宇城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北、球磨
海岸保全施設	835	22,200,000	八代、宇城、熊本
農地・農業用施設等 被害額 計		96,013,017	



ボックスカルバートの破断



コンクリート舗装の割れ



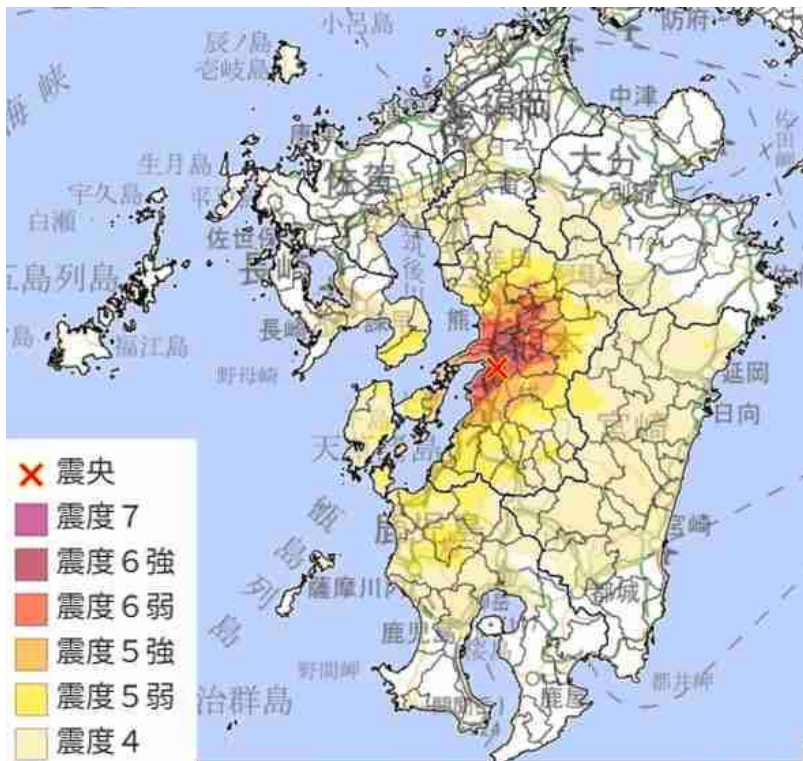
水路への建物の倒壊



ため池堤体のクラック



堤防波返しへの傾き



気象庁HP 推計震度分布より



ため池堤体の応急処置（シート張り）



2 地震発生後の初動体制、被災調査（MAFF-SATによる被害状況調査、リエゾン派遣、トリアージ）

○ MAFF-SATとは、農地・農業用施設及び農村生活環境施設が被災した際、迅速な被害把握や応急復旧を支援するため、被災自治体に派遣される農林水産省職員のチーム。

支援の内容

派遣された職員は、①初期情報収集、②緊急概査、③技術支援を行います。
また、必要に応じ試験研究機関等への専門家の派遣要請を行い、合同で調査及び支援を実施します。

災害発生

都道府県・市町村等からの要請により派遣を行うほか、
災害の規模（甚大性、広域性）等によりプッシュ型で派遣を行います。

①初期情報収集

今後の支援の必要性を判断するため、被災の範囲・規模、応急対策の必要性、被災自治体の要望等に関する基本情報の把握を行います。

②緊急概査

農地・農業用施設及び農村生活環境施設の被災状況（箇所、面積）の把握や被害額の算出等に関する支援を行います。

③技術支援

被災した農地・農業用施設及び農村生活環境施設の応急対策の実施や災害復旧計画の工法の検討等に関する技術的な支援を行います。

本格復旧着手



①初期情報収集



②緊急概査



③技術支援

①初期情報収集



②緊急概査（堤防変状調査）



③技術支援（応急ポンプの設置）



2 地震発生後の初動体制、被災調査（MAFF-SATによる被害状況調査、リエゾン派遣、トリアージ）

- 九州農政局農村振興部では、7月28日の震災発生後、同日中に災害対策本部を設置し対応を開始。併せて県庁にリエゾンを派遣。
- 令和8年熊本地震（7月29日）以降、被害の有無や課題、要望等を確認するため、大きな揺れ（震度5弱以上）を観測した市町村をMAFF-SATが訪問。
- 7月30日からは他の地方農政局からの応援職員とともにMAFF-SATが被災調査を実施。

（時系列）

- 7月28日 16:27ごろ 地震発生
16:30 災害対策本部設置、局長指示
県へリエゾン派遣
- 7月29日 市町村の被害状況等の確認開始
- 7月30日 他農政局から派遣されたMAFF-SAT職員が
到着し、派遣職員も含めた被災調査の開始

MAFF-SAT市町村訪問

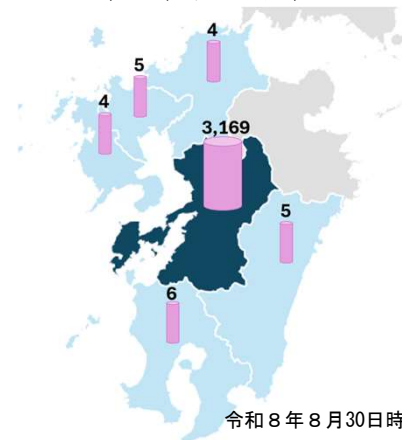


MAFF-SAT派遣者数
農政局別（延べ人数）

本省	180
東北	64
関東	59
北陸	295
東海	286
近畿	456
中国四国	465
九州	1,388

令和8年8月30日時点

MAFF-SAT派遣者数
県別（延べ人数）



令和8年8月30日時点

令和8年熊本地震における取組目標

- 1 国民・施設の安全を確保する
地震による被災を受けた農業用施設等の点検・調査を実施し、地域の住民の人命・財産の安全確保と情報提供に努める。
- 2 営農再開につなげる
被災農業者の早期営農再開を支援する。

3 被害状況

- 国営かんがい排水事業八代平野地区は、幹線水路の延長34.1kmのうち、全面復旧が必要な範囲3.16km、目地補修が必要な58箇所を確認。
- 県営かんがい排水事業氷川下流地区は、幹線水路（延長13.6km）の右岸側最上流部が破断し、右岸側約890haが断水。その他の幹線、支線も多数の損壊を確認。

【国営かんがい排水事業八代平野地区】

○ 被害状況



○ 被害状況調査



【県営かんがい排水事業氷川下流地区】

○ 被害状況



○ 被害状況調査



3 被害状況

● 防災重点農業用ため池

- 令和8年熊本地震を受け、発災直後からMAFF-SATを派遣し、熊本県職員と協力して被害状況調査を実施。
- 防災重点農業用ため池は、九州管内674箇所（うち熊本県446箇所）で点検を行い、熊本県内の56箇所では異常を確認。

○ 被害状況



○ 被害状況調査



3 被害状況

● 直轄海岸保全施設整備事業 八代地区

- 令和8年熊本地震により昭和工区においては、堤防のクラック、樋門部波返工の傾き、空洞化が発生。郡築工区においては、堤防道路に亀裂や沈下、堤防のクラック、潮遊池護岸の法肩が損傷。
- MAFF-SATの一員として地質の専門家である地質官を派遣し、被害状況の把握及び復旧工事の検討を実施。

○ 被害状況

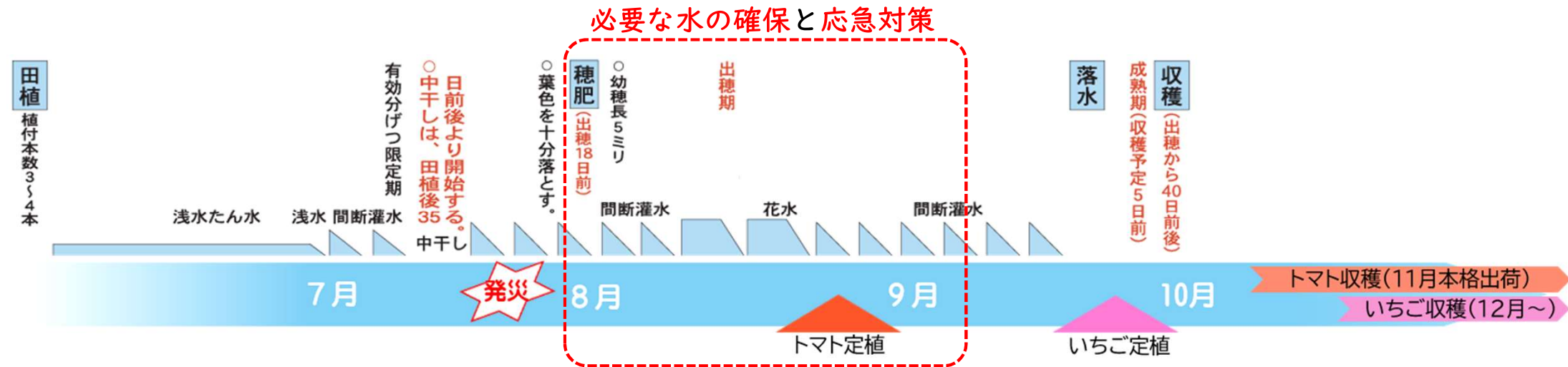


○ 被害状況調査



4 応急復旧等

- 発災後、地域の農業インフラが壊滅的な被害を受け、農作物の生育に欠かせない用水確保が困難な状況。
- このため、九州農政局は、農業被害の状況把握や用水確保など応急対策の緊急対応を実施。
- MAFF-SATは、被災農業者が継続して営農ができるように、用水確保など応急対策に全力で挑む。



MAFF-SATによる用水供給可能範囲把握



MAFF-SATによる空気弁の点検・確認



用水路への農業用水ポンプアップ

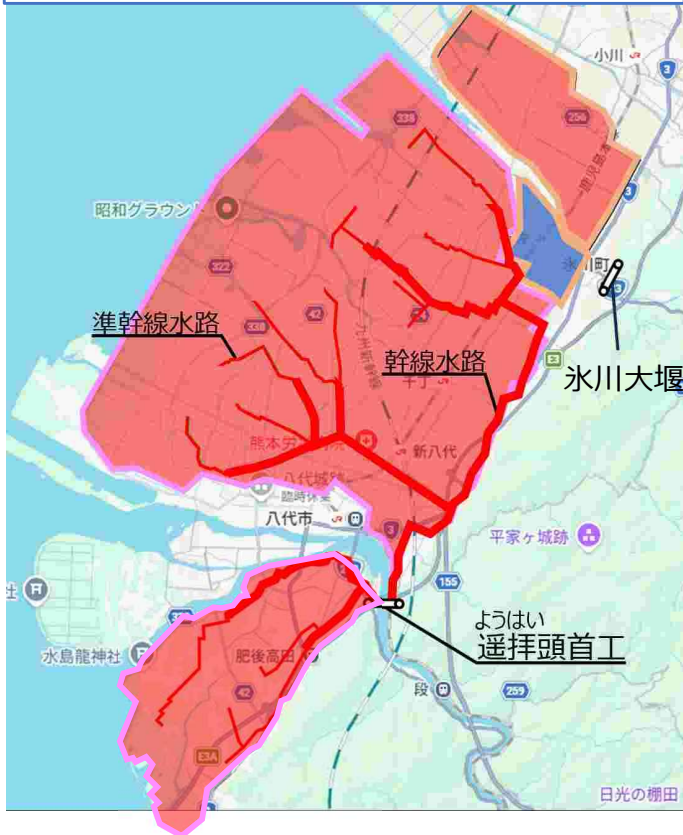


ほ場への用水供給再開

4 応急復旧等

【7月28日時点】
(発災直後)

- ・ 広範囲において幹線水路等が損傷。
- ・ 頭首工施設の損傷が無いことを確認し、球磨川からの取水及び幹線水路への通水停止。
- ・ 損傷箇所の確認に着手。
- ・ 暫定的な用水手当のためのポンプ（8月2日から稼働）及び給水車（8月3日から稼働）確保に着手。



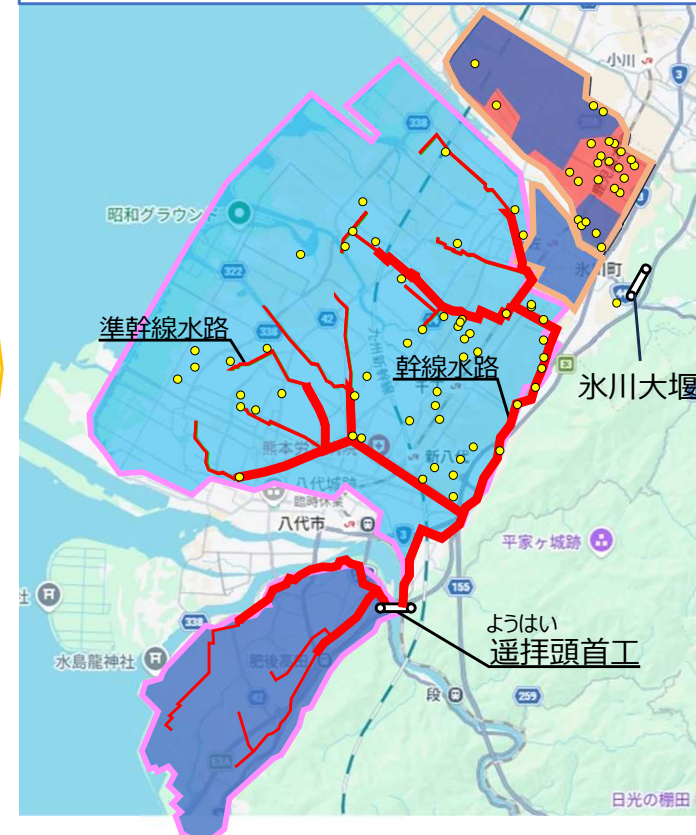
【8月8日時点】
(順次、用水供給開始)

- ・ [北岸地域]
幹線水路等の応急復旧工事を行い、通水可能であることを確認のうえ、農地への配水を順次開始（通水量の減を踏まえ、区域を分けたローテーション配水を実施）。
- ・ [南岸地域]
末端水路の損傷による一部の用水供給停止地域の応急復旧工事に着手（8月12日から用水供給再開済み）



【8月27日時点】
(現在)

- ・ ローテーション配水等の緩和に向け、通水量の増量のため、沈下した幹線水路の水路壁嵩上げ、排水路や沢水から幹線水路への注水等を実施。
- ・ 用水の農地への配水状況を情報収集し、配水支障箇所に応急ポンプ等による対応を順次実施。



用水供給停止
 用水供給中（試験通水完了）
 用水供給中（用水確保対策実施中）
 用水供給中
 応急ポンプ設置箇所

4 応急復旧等

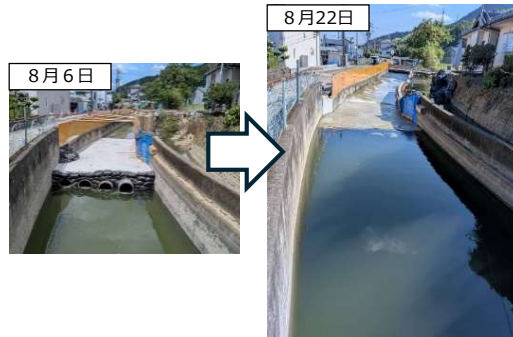
【国営かんがい排水事業八代平野地区】

- 被災した幹線水路等の応急復旧工事を実施し、8月8日から農地約4,400haへの送水を再開。
- 給水車による用水供給について、JA及び土地改良区を通じて地域に周知し、トマト、イチゴ等の園芸作物農家に対し希望農家への配水を実施。
- 用水路の応急復旧までの間、80台以上のポンプ及びポンプ車4台を配備し、用水路への補給を実施。
- 追加対策工事により送水量を増強し、8月23日までに末端水路最下流部への配水を確認。さらに、8月29日及び30日に沈下した水路壁の嵩上げや漏水箇所の補修を行い、通水を再開。

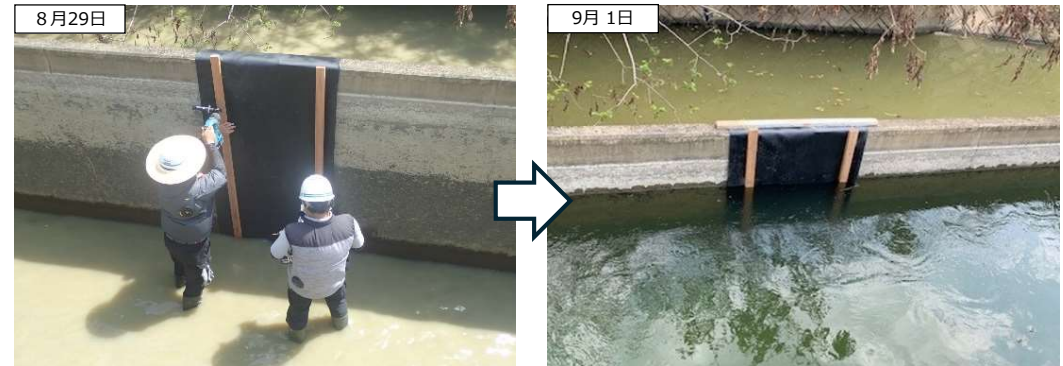
用水路への水の補給



追加工事により送水量を増量



漏水箇所の補修



給水車による配水



ポンプによる農業用水の供給



水路壁の嵩上げ



4 応急復旧等

【県営かんがい排水事業氷川下流地区】

- 氷川大堰直下の幹線水路の被災後、国・県が用意した約100台のポンプを投入。また、イチゴ農家等のために大堰の取水口にポンプを2台設置。8月7日から断水した農地への段階的な配水を開始。
- 農研機構（農村工学研究部門）とMAFF-SATが、幹線水路の応急復旧と暫定通水を支援。
- 8月22日から充水試験を実施し、25日には上流域の約190haの大半の農地において、幹線水路からの用水供給が可能となったことを農家へ周知。9月1日までに、幹線水路約13.6kmの充水が完了。

幹線水路の被災状況



幹線水路の仮復旧状況



幹線水路の管内面補修状況



（内面バンド：一部、水資源機構より提供）

応急的な取水のため用水路の充水



給水車用の
応急取水ポンプ設置



幹線水路の落水を取水



ハウス横のタンクへ給水



ハウスでの水利用



4 応急復旧等

- 令和8年熊本地震による点検対象の防災重点農業用ため池は674箇所（うち熊本県は446箇所、被災箇所は56箇所（うち決壊0箇所））。
- 県又は市町村が行う応急対応に関し、現地へMAFF-SATを派遣し、技術的助言、被害箇所へのブルーシートの設置、水位計の設置などを支援。
8月20日までに、応急対応が必要な箇所について全て対応済。
- 応急対策として、ポンプを用いて河川から揚水し、農業用水を確保。
- 海岸保全施設の堤防道路の亀裂や沈下、堤防のクラック、樋門部波返工の傾きなどの応急復旧を実施。

【ため池】



○ 応急的な農業用水確保



【海岸保全施設】



5 地元農家が営農継続（1/2）

- MAFF-SATの活動により、用水路の通水等による応急的な農業用水が確保され、農地に水が届くことで今期の営農が継続された。

応急用水供給・用水路の通水



5 地元農家が営農継続（2/2）

- 今後は、応急対策から本格的な復旧・復興のステージへ移行。
- 今期の営農用水確保を優先しつつ、本格復旧に向けて引き続き支援を行う。

農業用水の確保により今期の営農を継続



(参考) SNSによる情報発信の取り組み

- 農林水産省では、SNSを活用し、MAFF-SAT（農林水産省サポート・アドバイス・チーム）の取組を発信。
- 九州農政局のXアカウントでは、フォロワー数276人ながら、高い注目を浴びた。

農林水産省X

農林水産省 maff | Facebook



農林水産省農村振興局

8月4日 15:11

【農地・農業用施設等MAFF-SAT情報 その2】

令和8年熊本地震により被災した国営かんがい排水事業八代平野地区の水路において農業用水が通水できなくなっている箇所に対し、土地改良技術事務所が保有する応急ポンプを設置しました。
また、九州農政局八代平野農業水利事業所が地元民間業者と協力して同地区内に給水車も手配し、地域の営農に必要な農業用水の確保を図りました。

九州農政局X

農林水産省 九州農政局 (@MAFF_KYUSHU) / X



農林水産省 九州農政局
@MAFF_KYUSHU

【被災したため池を守る】

長年、地域の水田を潤してきたため池。
激震により堤体等に被害。
MAFF-SATは、被害の拡大を防ぐ応急対策や必要に応じて、水位計を設置。
監視体制を整え、地域の安全を守ります。

#令和8年熊本地震 #災害支援 #九州農政局



農林水産省 九州農政局 @MAFF_KYUSHU · 8月25日

【試験通水の裏側】

氷川大堰掛かりの試験通水。
気温37℃超の中、マンホールの重い蓋を開け充水確認。
時には溜まった水を抜き、地元の方へ通水確認も。
地道な作業の積み重ねが、農地へ水を届ける。
今日もMAFF-SATは前進中。

#令和8年熊本地震 #災害支援 #九州農政局



5 144 694 5.7万

広報の重要性

けいたろう@Manusフェロー
@keltaro_aigc



フォロワー276人の投稿が14万表示。熊本の田畑に水を戻した「発災9日間の総力戦」7つの記録

九州農政局のXアカウントでは、フォロワー数276人ながら、1つの投稿が14万回表示され、高い注目を浴びた。